公益社団法人隊友会

館山支部だより

平成29年11月号
（2017.11.25 通巻83号）

＜支部連絡窓口＞
千葉県隊友会館山支部
事務局(代表) 川 村　巌

師走を迎え 今年最後の支部だよりをお届けする時節になりました。
会員諸兄のご自愛、益々のご健勝と よい年を迎えられるよう祈念申し上げます。　　≪支部長≫

支部の活動概要

≪10･11月活動実績≫

10. 8(日) 千葉県護国神社秋季例大祭清掃奉仕
10.10(火) 旧海軍予備学生戦没者慰霊祭(安房神社)
11.25(土) 支部11月役員会(コミセン)
11.28(火) 館山航空基地殉職隊員慰霊祭(館山基地)

≪12･1月活動予定≫

12. 1(金)　現地研修支援(君津歴史研、三芳地区)
1月上旬 第21航空群司令年始表敬(OB団体代表)
1.27(土) 支部1月役員会(コミセン)

動き出した「憲法論議」と現実味の増した「国民投票」

先の衆院選で国会の勢力圏が変わり、長いことくすぶっていた憲法論議が動き出した感があります。改憲を党是とし公約に掲げた安倍政権の取り組みも、今まで以上に「本気度」が感じられます。一方では、「改憲阻止」の動きも活発化し、憲法論議の成り行きは予断を許さないところです。

憲法改正のカギを握る「国民投票」

憲法制定以来、まだ一度も行われたことのない国民投票は、これですべてが決まってしまうだけに、国会での憲法論議の白熱化に加えて、今後、与野党とも如何にして「国民投票で半数以上を確保するか」に向けた情宣(情報活動等)が活発化することは当然の成行きでしょう。

すでに「美しい日本の憲法をつくる国民の会」や民間憲法臨調等をはじめ、全国各地で各種の団体等による公開憲法フォーラムや講演会などの活動が活発に行われています。出遅れたら負けなのです。

「国民投票」について考える･･何を根拠に判断･投票するのだろうか？

国民投票の主体はあくまでも国民一人ひとりであり、必然的に政治、憲法、防衛、戦争等に関する知識・経験はバラバラなのです。　憲法(特に第9条)の改正に反対を表明する護憲派の人々の憲法に対する考え方の基本は、現在の憲法第9条が「戦争防止のための歯止めになっている」ということで、これ(第9条)を改正すると「日本が(また)戦争を始める」ことになる、というのが最大の理由のようです。

国家としての行動の規範たる憲法は、「自分(日本)から仕掛ける戦争を防止」していることは確かですが、「相手(他国)から仕掛けられる戦争を防ぐ手立てにはならない」のです。この単純、明快な論理がなかなか通用しないのが現実なのです。　国民投票がこのような単純・誤った考え方・判断や、自分だけの幸せ・利益、また「戦争は悲惨、残酷」といった感情・感傷論で決着が付けられるようでは、折角の立憲・議会制民主政治の土台・根底が揺らぐことになりかねないと思うのです。

自衛隊出身OB、隊友会として何をなすべきか

われわれ自衛隊OB(個人及び団体)ができること・やるべきことは、国民(県民、市民)に対して国の防衛について正しい理解・認識を持ってもらうよう、機会をとらえ方策を講じて情宣に努めることだと思います。憲法(第9条)の問題は、「国の防衛」に対する考え方にかかっていると思うのです。

千葉県隊友会では来年5月3日の憲法記念日に「美しい日本の憲法をつくる国民の会」等と連携して、憲法問題をテーマに広く市民にアピールするためのイベントを計画中です。　　　＜支部長＞

新入会員紹介

9月期　小金秀治会員(海、21整補隊)

長年の海自勤務を全うされ、館山支部への即日入会を歓迎致します。

千葉県隊友会部隊研修(横須賀、護衛艦「いずも」研修)のご案内

期 日:30. 1. 15(月)　　人 数:70名(地本が勧誘する高校生を含む)

後日、細部要領が出されますが、人数制限もあり希望者は早めに(12. 10まで)事務局宛(℡22－0230)申し出てください。

「海軍中攻隊之碑」(基地内)

「親日台湾」と「反日韓国」・・この両極端は何から生まれたのだろうか？

池上彰のニュース解説「そうだったのか！」によれば、台湾では植民地時代を経験した多くの人々が日本の統治に理解を示し、若者の間でも”日本大好き”コールがツイッターを賑わしているとか。かたや韓国では従軍慰安婦を引合いに日本の統治を「圧政」として誹謗中傷し、豊臣秀吉を担ぎ出すなど無軌道ぶりはとどまるところを知らない。

日本は日清戦争で清国から台湾を割譲され、10年後の日露戦争では大韓帝国(朝鮮)を併合し、初めて植民地統治を経験した。 それぞれ総督府を置き、莫大な国家予算を投じて鉄道・ダム建設等のインフラ整備から教育、産業、農業改革等、それぞれの近代化の推進に有形無形の貢献があったことは客観的な史実である。

台湾では3%弱だった進学率が71%まで向上し、アヘンの撲滅、医療改革による伝染病の予防、農業・産業改革による生産量の増大など、当時の有形無形の歴史遺産として多くの人々の心の中に生き続けている。

同じ時代に同じような日本の統治を受けた台湾と朝鮮で、なぜこのような大きな違いが生じたのだろうか。

戦後の台湾、朝鮮の政権・政策の違いを見てみると･･･

1945年に日本が敗れ、共産党との戦いで本国を追われた蒋介石・国民党一派が台湾の政権を握ることになった。3万人近い台湾人を殺戮した武力弾圧「二・二八事件」など、国民党政権の評価は極めて悪かったようである。台湾での俗説「犬が去って豚が来りぬ」は、日本は番犬の役を果してくれたが、国民党はひたすらむさぼり喰うのみ、という揶揄なのであろう。 植民地時代を経験した台湾の多くの人々は、*「歴史を客観視し、史実を悲観することなく現代に伝える」*という考え方に立って、高校の歴史教科書にも植民地時代の日本の業績(功罪ともに)が素直に記載されている。一方で韓国の場合、亡命先の米国から帰国した李承晩が、朝鮮動乱の前年に大韓民国(韓国)を独立させ、初代大統領として「(徹底的な)反日」をマニフェストに掲げ、独裁政権を欲しいままにした。植民地時代の日本の業績はすべて抹殺(封印)され、歴史教科書には日本は「暴虐の限りを尽くした侵略国家」として強調されている。先のトランプ大統領訪韓時の晩餐会に元慰安婦が招かれ「独島エビ」が振舞われるなど、「反日」は韓国の国是として今日もなお”依然として”踏襲されている。 *「歴史は(都合好く)塗り替えられる」もっとも典型的な見本と言えよう。それでは、東京裁判が残した「日本の歴史」を皆さんどのようにお考えでしょうか？*　　＜川 村　巌会員(海)＞

「双発大型攻撃機の開発試験を担った館山航空隊」

館山航空基地の一角に戦後(S45年)再建された「海軍中攻隊之碑」には、試験機の開発から搭乗員の養成、戦力化に至る輝かしい遺業が顕彰されているが、碑文からは館山基地が担った開発試験に関る具体的な業績を読み取ることはできない。公刊戦史や関係者の戦後の著作にも、館山における中攻の開発に関する記述は見出せない。当時の製造会社「名古屋飛行機」と交わした文書や航空事故資料等からそれらの一端を浮き彫りにしてみた。

狭い館山基地でなぜ大型機の開発試験を？

館山航空隊(「館空」)の開隊(S5年)に伴い横須賀航空隊(「横空」)が実験航空隊に指定され、新機種の開発試験を一手に担当していた。ではなぜ狭い館山飛行場(滑走路長7～800m)で、しかも実戦部隊の館空が大型攻撃機の試験をという疑問が残るが、沢山の試験を抱えていた横空の手に余り、「空技廠」(追浜) に近い館空に白羽の矢が立てられたのであろう。 背景には中国大陸情勢の緊迫化とともに海軍航空戦力の増強・近代化に人一倍の熱意を抱いていた当時の航空本部技術部長・山本五十六少将の執念があったであろうことは推測に難くない。

館山基地の大型機用格納庫の建設と滑走路の舗装工事が進められ、S10. 7には試験機「9試陸攻」1号機に続いて年末までに4号機が配備され、4機体制による実用試験が始められた。搭乗員は製造会社や空技廠で飛行試験を経験したメンバーが中心になり、試験と平行して過酷な状況下で徒弟制度的な搭乗員の養成が行われ、この中で繰り返し行われた中国やサイパン島無着陸往復飛行試験が見事成功を収めた。

翌S11. 4には実用試験を終えて「96式陸上攻撃機(通称「中攻」)として海軍に制式採用され、同時に2、000m級滑走路2本を備えた中攻専用の木更津航空隊が誕生し、中攻隊戦力化のための体制作りが進められた。

「中攻」の戦力化と中国大陸への「渡洋爆撃」

館空の任務はこれで終わらず、実用試験に引き続いて「運用試験」が1年近く続けられた。運用試験に入った直後、中攻の航空事故が相次ぎ、沖ノ島での墜落事故(大破、乗員軽傷)や2機編隊による満州国新京への長距離飛行試験の帰途、僚機が消息を絶ち乗員全員殉職という痛ましい大事故など、戦力化の前途多難を思わせた。

一方では木更津に続いて鹿屋、大村、大湊(ただし大湊は不詳)に中攻隊が編成され、戦力化に拍車がかけられた。

このような矢先、盧溝橋事件に端を発して日華事変が勃発し、S12. 8、木更津基地で三十数機編隊の中攻隊が編成され、世界に先駆けた中国大陸への渡洋爆撃が華々しく敢行され、欧米列強の耳目を集めた。

館山での「9試陸攻」の実用試験から編隊渡洋爆撃の出撃まで、僅か2年という驚異的なペースであった。この過程で館空がどこまで関与したのかは定かではないが、「海軍中攻隊之碑」には関係者たちの 筆舌に尽くし難い苦難、苦渋の体験と思いが刻み込まれていることであろう。　　＜自称地域史探索マニア　その17＞